

現地からのお便り

森林再生事業の進捗

2010年7月、プロジェクトは3年目に入りました。これから1年かけて、新たに50ヘクタールの土地に苗を植え、しっかり根付くよう管理をしていきます。

このプロジェクトでは、地元農家の方々と協力して森林再生を進めています。森林再生事業の候補地選定には、その土地を現在「誰が」「どのように」利用しているか調べることから始まります。土地を利用している人々と協力しながら森を作っていくためにはとても重要な作業になります。傾斜が大きいので土壌が流れやすく、農業に適していない土地など、森林再生に適している土地を50ヘクタール選び、そこを利用している人々との話し合いを重ねました。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

選ばれた50ヘクタールの土地は、現在94人の地元農家の方々が農地として利用しています。7月～9月、これまで利用していた土地の場所にしがって、約20人ずつの農家グループが5つ作られ、農家グループごとにリーダーと指導役が選ばれました。国立公園スタッフとNGOメンバーも協力しながら、農家グループが話し合いによって植える樹種を選び、苗を植え、大切に育てていきます。

プロジェクトで植える自生樹種の苗は、地元農家が近隣の森で集めたものです。これらの苗を買い取ることで、地元農家の新たな収入源にもなっています。これから植える 50 ヘクタール分の苗が既に準備されています。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

これまでの2年間に植林をした150ヘクタールの土地についても、地元農家や国立公園スタッフとともにモニタリングと管理を続けています。8月31日、プロジェクトの成功を大きく評価した国立公園長から、ダイキン工業にお礼状が届けられました。このプロジェクトは、インドネシアにおける森林再生事業の素晴らしい成功例として、インドネシア国内のさまざまな場で紹介されています。

看板

今年6月、ダイキン工業のエアコンを通じて環境へ貢献をされているお客様の名前入り看板が設置されました。看板はプロジェクトの活動地域に設置され、植林地管理や農作業のために行き来する人たちを見守っています。また、NGOメンバーも看板に異常がないよう、定期的に見回っています。日本の人々の暮らしとインドネシアの森林再生や環境保全をつなぐこのプロジェクトが、少しでも多くの人々に知って頂けることを祈っています。



※画像および文章の無断転用はご遠慮下さい。